

# 東京庄原格致会 会報

第 33 号

2025 年 9 月

発行人・武廣 巖  
編集人・本間ますみ  
印刷所・(株) クレスコアース  
コミュニケーションズ

## 令和六年度

## 東京庄原格致会

## 総会・懇親会の報告

ようやく秋風が吹き始めた10月20日(日)、四ツ谷駅前の主婦会館プラザエフにて「令和6年度第42回東京庄原格致会総会・懇親会」が開催されました。

庄原格致高校の畦知克利校長先生をはじめ市長代理として庄原市企画振興部いちばんづくり課長、本校同窓会本部から他、庄原実業高校同窓会東京支部、世羅高校東京校友会から、来賓・特別参加7名を迎え、会員は31名の参加でした。

### 【総会】

初めに、司会の武廣巖事務局長(48年卒)より、令和5年度に事務局で把握できた9名の会員の計報が報告され、黙祷をささげました。

続いて八谷英樹会長(35年卒)から「年明け早々の能登半島の地

震、異常な温暖化の影響、ウクライナ戦争や中東半島の状況など、世界的に暗いニュースが続く中、日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞するという嬉しいニュースがあった」等の挨拶と自身の年齢から、会長の交代を提案し、この後の議事で審議をお願いするとの話がありました。

次に、事務局長より来賓の紹介があり、初めに畦知校長先生より次のような挨拶をいただきました。「3月に102名卒業、4月に92名の新入生を迎えた。先日、2年生が関東地方への修学旅行を終えた。お配りしたカレンダーは写真部が作成し文化祭で販売したもの。進路状況として国公立大学への進学は40%、学習プロジェクトの取り組みは県の教育奨励賞を受賞。」等、生徒たちが日々がんばって楽しい高校生活を送っている様子が伝えられました。

次に、本校同窓会より会長代理としての藤谷善久副会長(40年卒)

が、前谷邦治幹事長(平成元年卒)とともに参加した旨、挨拶をいただきました。その中で本校創立130周年を2年後に控えて記念行事を企画していること等、お話がありました。

続いて八谷会長を議長に、議事に入りました。

令和5年度事業報告および決算報告を武廣事務局長が、会計監査報告を遠藤靖夫監事(37年卒)が行ない、それぞれ拍手で承認されました。

次いで役員改選が議題になりました。自薦他薦がないため、八谷会長から、新会長と新任5名を含む新役員体制が提案され、拍手で承認されました。武廣事務局長が新会長に就任し、挨拶がありました。

続いて庄原市企画振興部いちばんづくり課の足羽幸宏課長と特別参加の武田悠作主任主事より「庄原市の関係人口創出の取り組み」と題するDVDをもとにさまざまな庄原の現状と課題、その取り組みと成果等、説明がありました。

### 【懇親会】

懇親会は幹事長の助政千尋さん(40年卒)の司会で、生田八洲



東京庄原格致会 令和6年度総会 出席のみなさん



「貧しい大統領」と言われていました(た)は、国連で「私は貧しくありません。多くのものを必要とする者が貧しいのです。物質的な豊かさばかりを追求するあまり、私たちにとってかけがえのない人と人との繋がりが失われつつあるように思います。」と話されています。同じ高校で学んだのも何かの縁、東京庄原格致会はきつと皆さんの大切な居場所になると思います。

総会・懇親会でお会いしましょう。嬉しいことに、最近、私より若い人の参加が増えてきています。

(5月下旬記)

## 令和七年度 総会・懇親会 のご案内

十月十九日(日)  
「主婦会館プラザエフ」  
にて開催

次の通り、東京庄原格致会の総会・懇親会を開催いたします。母校の校長先生や母校同窓会の関係方々にも案内状を差し上げています。関東地方の大学等に学ぶ学生のみ

なさんにもご連絡しています。楽しい会になりますよう、お誘いあわせの上ご参加ください。

一、日時

令和七年十月十九日(日)

(十一時三十分から受付)

【総会】

十二時から

(約三十分～四十分)

【懇親会】

総会終了後から約二時間

(十五時半終了予定)

二、会場

主婦会館プラザエフ

(九階 スズランの間)

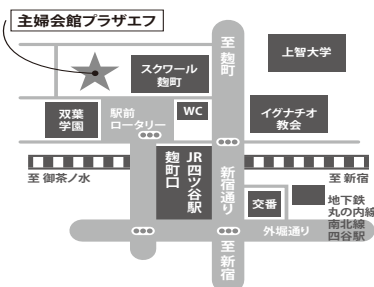
三、会費

八千円(同伴者も同額)

※学生は無料

※年会費(二千元)は当日でも承ります。

### 総会・懇親会会場のご案内



#### 主婦会館プラザエフ

東京都千代田区六番町十五番地

TEL.03-3265-8111

- ・JR「四ツ谷駅」麹町口 徒歩 1分
- ・東京メトロ 丸ノ内線「四ツ谷駅」1番出口(徒歩 3分)
- ・東京メトロ 南北線「四ツ谷駅」3番出口(徒歩 3分)

## 「格物致知」の現在



広島県立  
庄原格致高等学校  
校長 今川 俊文

同窓会の皆様には、日頃から本校の教育活動に御支援を賜り、感謝申し上げます。令和7年4月に庄原格致高等学校校長に就任しました今川俊文と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私自身は7年前まで本校に教諭として勤務していました。その当時と比べても、生徒たちの自主・自立の精神に満ち、自由を貴ぶ雰囲気は変わっていません。また、学校全体に根付く進取の精神も同じです。平成26年度から平成29年度までの4年間は国立教育政策研究所より「教育課程研究指定校」に指定され、当時はまだ珍しかった高等学校でのパフォーマンス課題と評価方法の開発を行い、生徒の論理的思考力やそれらを表現する力の育成に取り組んできました。現在でも広島県教育委員会からSTEAM型教育牽引校として研究指定を受けており、常に時代の先端を歩もうとしています。こう

した姿勢は一朝一夕に作られたものではなく、庄原格致が創立以来128年の年月を経て校風として醸成されてきたものだと思っています。同窓生の皆様が築き、継承されてきた伝統をさらに発展させていきたいと考えています。

さて、先ほども触れましたが本校は令和6年度から2年間、広島県教育委員会からSTEAM型教育牽引校に指定されています。STEAM型教育とは、Science、Technology、Engineering、Liberal Arts(芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で定義)、Mathematics等の各教科での学習を実社会での課題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育を実践するカリキュラムを言います。社会の事象を様々な視点から見つめ、分析してその本質を見極め、その課題を見つけ解決を図っていくものであり、現代の実社会において不可欠な資質・能力の育成を目的としています。本校の校名の由来であり校訓でもある「格物致知」は「事々物々の理を究めて知識を得たならば、おのずからは非善悪の分別を誤ることなく、やがて誠意・正心・修身・齊

家・治国そして平天下をもたらず」というものです。本校が創立以来掲げるこの理念は、STEAM 型教育を推進する上でもその基盤となるものであり、不易の価値を持っています。情報技術分野の革新は非常に速く、予測が困難な現代にあっても、本質を見極め、流行に對ししなやかに対応していかなくはなりません。「格物致知」は「かわらない本質」を大切にするとともに、「かわりゆく時代の先へ」とつながる理念として、本校の教育活動の中心にあり続けています。

その中でも格致生が少し変わってきたと感じるのは、外向きの生徒が増えてきていることです。この挨拶文を書いている日も、昼休憩に坦懷の園で軽音楽部がライブをしていました。4 月には吹奏楽部も同じようにミニコンサートを開催していただきましたし、地域のイベントにも積極的に参加しています。また、月に 1 回程度、本校や庄原市民会館内にある自治振興センターなどで小学生を対象とした小学生 STEAM 教室を行っています。そこでは格致生が先生となり、小学生に対しお団子づくり、

防災、宇宙の不思議、農業体験、理科の実験など様々なテーマを設定し、共に学びを進めています。さらに、大学主催の英語スピーチコンテストにエントリーしたり、短期の海外留学やボランティアに参加したりする生徒も出てきています。今の格致生は、社会の中で自分の役割を見つけたら、力を試したり、経験を積もうとする生徒が増えていくように思います。

庄原市は少子高齢化が進んでおり、本校でも生徒の確保が最大の課題となっています。しかし、この地域や社会の課題に取り組みもうとする生徒も増えていきます。今後とも県北、庄原を支える人材を輩出する学校として、庄原格致の存在意義を高めていきたいと思っています。どうぞ、母校に関心を持っていただき、今後とも御支援をお願いいたします。

## ご挨拶



広島県立  
庄原格致高校同窓会  
会長 藤光 有  
(昭和四十年卒)

県北地方は田植え真っ盛りの時期となりましたが、東京庄原格致会の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。

日頃は、庄原格致高等学校同窓会活動に格別のご支援並びにご協力を賜り、深謝いたしますとともに厚くお礼を申し上げます。

さて、今春、母校では 89 名が卒業し。新たな同窓会員が誕生しました。

また、平成の大合併後 20 周年となる庄原市では、任期満了に伴う市長選挙と市議会議員選挙が行われ、4 月 13 日、新たに無所属で新人の八谷恭介氏（庄原格致高・平成元年卒業、川北町出身）が市長に初当選されました。市民は民間感覚で企業や市民との協働を目指す新市長の政治姿勢に大いなる期待を寄せています。そして、定数が 1 減となった市議会議員選挙では、現職 11 人と新人 8 人の計 19 人が決まりました。過疎化が進み人口 3 万人割れが迫る庄原市にとって、市の明るい未来を求め、若返りが進んだ市長・市議会議員の実行力に将来を託したいとす

る市民の期待が結晶したものであると思います。

母校関連では、今年度の職員人事で学校長の異動があり、新しく県立日彰館高校から今川俊文校長が着任されました。今川校長は庄原市にお住まいを構えられており、より地域に密接した母校運営に当たられるものと心強い限りであります。

ひるがえり、今年は庄原格致高等学校創立 128 年目にあたります。まもなく迎える創立 130 周年を記念する同窓会各種行事等の立案に着手しなければならぬ時期に來ていると認識しています。つきましては、早い時期に同窓会・学校・PTA の関係者と連携を図り、三者による実行委員会を結成して予算額並びに実施計画についての協議を重ねていくことが必要となります。東京庄原格致会会員皆様の絶大なるご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

終わりになりますが、東京庄原格致会会員皆様並びにご家族ご一同様のご健勝とご発展を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

令和 7 年 5 月 30 日

# 会員だより



GROUND ZERO  
HIROSHIMA  
Love&Peace  
爆心地広島より  
愛と平和  
宮角 孝雄  
(昭和四十一年卒)

私は昭和41年度卒業の被爆2世です。祖父は広島市内で教師をし、家族6人で暮らしていましたが、日本軍関係の知人から「広島はいつ空襲されてもおかしくないですよ。」と助言され、家族4人が先に庄原に疎開して、次に祖父と父が庄原に出發しようとした8月



6日朝8時15分、広島駅(爆心地から1.9キロ)で被爆したのでした。

父は倒壊した駅舎の下敷きになり頬から下顎まで五寸釘が貫通し重症で意識不明でしたが、運良く陸軍病院に運ばれて治療を受け生還できたため今の私の命があるので。その後、父は47歳で亡くなりました。義母は通勤時の市電内(爆心地から700メートル)で被爆しましたが満員電車の中に立っていた為助かり、ABCC(広島比治山にあるアメリカ機関の原爆傷害調査委員会)に検査入院しました。義母の父は爆死、母は被爆1年後に死亡したのです。

私は同じ被爆2世(格致42年卒)の妻と結婚しましたが、妻は体の弱く胸に原因不明の腫瘍ができるなど何度か手術をしましたが、55才で亡くなりました。2人の子供たちも体が弱く、核が及ぼす影響が今も心配です。悪魔の兵器「原爆」は何故使用されたのか?なぜ現在も作られるのか?何故人間の始末に負えない「核」を使用続けるのか?世界の人々はもう思っているのか?



私は、2000年から25年間、原爆ドームに訪れた人々や平和活動されている方、被爆者、被爆2世、被爆3世の方々をアンケートに答えて頂きながら撮影して来ました。原爆ドーム前のポトレイトを数枚撮影した後、目を閉じて平和を考えて頂きシャッターを切ります。そうして現像しプリントして出来上がったモノクロ写真からはそれぞれの人が発信する平和のメッセージが静かに伝わってきます。

写真(1)キスの写真はピースライドのイタリア人男女です。(当時クロアチアは内戦でした)の大学教授をリーダーに、12人が自転車でアメリカ・シアトルをスタートし、1年6ヶ月かけて世界40数ヶ国で平和を訴えながら最終目的地である広島原爆ドームに到着、2000年1月1日に撮った

ものです。

写真(2)は、2008年8月20日撮影した爆心地より1.2キロで被爆した故・坪井直さんです。2024年暮れノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会会長をしておられました。

写真(3)は、広島から女性の力で平和を呼び掛けている団体によばれて来た女性2人で2005年8月6日の撮影です。兄をイスラエルの爆撃で亡くし弟をイスラエルに逮捕されたパレスチナの弁護士 Shireen Essawiさん(左)と、テロで娘を亡くしたイスラエルの小学校教師 Ayellet Shadakhさん(右)です。

コロナ前の2019年6月10月GROUND ZEROの写真EU文化庁が所在するフランス、ストラスブールに展示し市長を始め多くの方々に観て頂きました。

私はこれらの写真をより多くの人たちに観て頂き平和について考えて頂きたいと思っています。これからも8月6日前後や、写真展などで広島に訪れる時は必ず原爆ドームの前で撮影していきます。お声がけをいただくと嬉しく思います。

今年、被爆80年に当たり写真集「GROUND ZERO HIROSHIMA Love and Peace」を、スタジオ宮角より出版致しましたのでどうかご覧になってください。

宮角孝雄

〒162-0851 東京都新宿区  
弁天町87-2108

TEL 090-1662-7523

E-mail peace\_miyakaku@yahoo.co.jp

既刊写真集にジャズギタリスト

「ジョー・パス」、「GROUND

ZERO 希望の神話」がある。

HP: <http://peace-miyakaku.com/>

## 『イタリアについて

### 100の疑問』より

#### (第1回)



藤谷 道夫

(昭和五十三年卒)

私は慶應義塾大学の仏文科にいた3年の秋、須賀敦子先生（後に上智大学教授となり、作家として

は女流文学賞などを受け、日伊双方で有名な翻訳家でもあった）の知己を得るといふ僥倖に浴し、以来、5年間、ダンテの『神曲』と一緒に読んでいた。毎週土曜日に上智大学の研究室で楽しい時間を過ごしたが、これがきっかけで仏文学からイタリア文学に転向した。ダンテ（1265年～1321年）はラテン語の著作を残しており、どうしてもラテン語に習熟する必要があるため、筑波大学の大学院で西洋古典学（ギリシャ語とラテン語）に励み、博士課程後期の時、イタリア政府給費留学生としてフィレンツェ大学に2年間留学。帰国後、帝京大学、次いで慶應義塾大学で教鞭を執り、昨年、定年を迎えた。

私の経歴よりも、この機会に皆さんにお伝えしたいのは、イタリアでの経験についてです。イタリアに留学した後、毎年、イタリアに足を運び、長い時間をイタリアで過ごしましたが、まさに（不思議の国のアリス）になったような気持ちでした。

私は皆さんと同じように庄原で生まれ、田んぼに囲まれて18歳まで育ちました。生粋の田舎者であると同時に考え方も日本人でした。一方、イタリアに行くと、すべてが

日本と違います。見るものも風習も考え方も感じ方も、こうも正反對なのかと驚きの連続でした。フィレンツェはルネサンス発祥の地で、世界の教科書に出ていたミケランジェロのダヴィデ像がある街です。私はレオナルド・ダヴィンチが住んでいた場所から百メートルほど、ダンテが住んでいた家から三百メートルくらいにある築500年ほどのアパートに居を得ました。帰国後、イタリアで疑問に感じたことを100ほどまとめました。今日はそのうちの幾つかをお話したいと思います。

まず気づいたことは街の中に電信柱がないということです。それこそ一本もありません（東京では狭い道でいつも電信柱が邪魔で、空を電線が覆い尽くし景観を損ねていますが）。屋根瓦はすべて茶色で、鋳戸は緑（または茶）色で統一されています。しかも、東京ではいつも悩まされる開かずの踏切ですが、踏切がまったくありません（従って、踏切事故もありません）。日本では特に視覚障害者の方がホームから転落する事故が後を絶ちませんが、イタリアでは高いホームがないので転落のしようもない。私の東京の家の近くには30mおきに信号機がありますが、イタリアでは遥かに

少ない。道を渡ろうとすると、車がすぐに停まってくれます。帰国して気がついたことに、イタリアでは火事がまったくなかったことです。日本では連日火事のニュースを流していますが、イタリアで火事と言え、山火事で、二度も火事のニュースをテレビで見たことはありません。なぜならイタリアには石油ストーブもなければ、ガスストーブ、電気ストーブもないからです。40年前でもすでに建物は全館集中暖房で、どの部屋も真冬であれ、20度に保たれ、寝具も毛布一枚だけでした（当然、布団なるものは存在しません）。どの部屋（風呂・トイレ）もすべて同一温度のため、風邪を引きようもありません。日本では浴室が寒く、温度差が大きいため、毎年1万9000もの人が入浴中に亡くなりますが、イタリアでは風呂場で命を落とすことはありません。また、気がついたことに、イタリアには腰が曲がった老人がいないという事です。私の祖母もほぼ直角くらいに腰が曲がっていましたから、老人とはそんなものだと思っていました。イタリアでは腰が曲がった老人はいないのです。

書き出せば、キリがありません。（続きは次号へ）

# 母校だより



## 母校の現況

庄原格致高校

教頭 龍王 理香

同窓会の会員の皆様には、日頃より本校の教育活動、また在校生に対し多大なる御支援をいただきまして大変ありがとうございます。

御存知のとおり、本校には令和4年度に完成した「医療・教職コース」があります。従来の普通科3クラスのうち1クラスを「医療・教職コース」とし、医師、看護師をはじめとする医療従事者や保育士、小学校、中学校などの教員を目指す生徒を高校から育成する



県内唯一のコースであり、全国的にも大変珍しいコースです。庄原を含む県北では、地元出身の医療従事者や教育者が減少

していますので、将来は地元で地域に貢献したい、そのために医療や教育現場で働きたいという希望を持った生徒のニーズに応えるものです。このコースの特色を一言でいえば、「TEA」、すなわち「Try（やってみる）、Experience（自分のものにする）、Activity（活動）」です。普通コースよりも体験や実習などの機会を充実させ、教室の枠を超えた実社会に近い学びを創出しています。

実際の授業では、多面的多角的に医療現場や教育現場の現代的テーマについて外部講師から講義を受け、そこで得た知識等を活用して小グループで意見交流したり、議論したりする学習をしています。また、実際に体験する学びも大切に行っているのがこのコースの特色です。高校1年生では今年



度コロナ禍で中断していた大学実習プログラムを一泊二日で行いました。このプログラムでは、看護学、薬学、臨床検査な

ど8つの学科において施設見学や大学の先生や現役の学生さんから指導を仰ぎながら実習を受けました。実習では、採血や調剤をしたり、電気メスや内視鏡を扱ったりするなど、日頃憧れを抱いていた医療現場とそこで働くために必要な学問について体験を通して学ぶ大変貴重な機会となりました。

年度末には、救急法の講習を受講して資格を取得し、次年度に新入生が受講する講習会で補助をするような取組も行っています。

高校2年生では、格致祭文化の部において、来校してくれた小学生を対象に理科の実験を行う企画を実施しました。実施までの間に、小学生の興味関心について考え、何を企画の中心に据えるか、どのように教えればわかりやすいかな

ど、クラス内で議論を重ね、ながら大学生が行う教育実習のようでした。年度末には、広島大学教育学部を訪問して、総合的な探究の時間で行っている個人探究に対して大学生から個別指導を受けたり、大学の学びについて講義を受けたりしました。このように、コースの特色を生かして、経験しながら自身の進路に対する考えを深め、進路意識を高めることにつなげていくれています。

学校行事も活発に行っています。現在の在校生は、中学時代や本校に入学してからも、新型コロナウイルス感染症の影響で、集団で行う行事等の経験が少ない生徒たちです。昨年度の先輩たちが手探りで企画・運営をする様子をよく観察しており、そこから出てきた課題を改善しながら、昨年度よりもグレードアップした行事を組み立ててくれました。成長の跡が見られたのは、事前に多角的に行事の準備を進めてくれていた点です。地域柄、行事実施日に必ずしも晴天で実施できる場合ばかりではありません。生徒たちは、雨天や積雪などの悪天候の場合にはどのように対応するべきか、計画通りにいかない場合の想定もした準

備を進めていました。実際に、令和6年度3月に実施した球技大会では前日から大雪でグラウンドでの競技は実施できないと当日判断し、体育館でのドッジボールに切り替えました。事前にチーム編成の変更やルール変更なども考えていたのですが、当日は全校放送による指示だけで大きな混乱もなく競技会を進めることができました。また、クラスによる人数差への対応の仕方を考えて企画をしていた点です。具体的には、人数が少な



いクラスでも十分に勝負できるようなルールや評価方法などを考えて取組を進めてくれました。格致祭文化の部の合唱祭はクラス対抗で行います。最少人数が13名のクラスから最大人数が40人のクラスまで人数に大きな差があります。人数によって評価に差が出ないような評価の観点を設定しました。例えば、入退場の仕方や指揮や伴奏の仕方などです。新しい基準による合唱祭では優勝したクラスは、3つの部門で1位と総合で1位という、完全優勝を果たしました。人数が少ないクラスも声の大きさも他のクラスに引けを取らないパフォーマンスでした。企画をした生徒会執行部も、制限がある中でもどのようにチームで力を合わせていけばよいか考えて取り組んだ各クラスもあつぱれでした。このように各行事で、持てる力を存分に発揮すること、そのプロセスの中で仲間と力を合わせることを通して、生徒たちは本校で育成を目指している資質・能力であるメタ認知能力やレジリエンスを高めていくと確信しています。これまで以上に、「一生懸命がかっこいい」という格致生の良い面が年々強くなり、それ

が伝統として着実に受け継がれていることを嬉しく感じています。

また、本校では広島県教育委員会からSTEAM型教育を推進するモデル校として指定を受けて、総合的な探究の時間を中心に、実社会における課題を教科等横断的な視点で解決する探究学習を実践して、本年度は、県内3校の牽引校として指定最終年度となります。令和6年度には、牽引校として県内の県立高等学校から40名以上の参加者を得て、公開研究授業を実施しました。公開研究授業では、「物理(力学)」と「体育(走り幅跳び)」のそれぞれの単元を組み合わせて実践しました。走り幅跳びの距離を長くするためにはどのような条件が考えられるか、「物理」の授業で仮説を立て、その仮説に基づき「体育」で実演します。そこで踏切の角度を測定してデータをとり、そのデータを「物理」で解析して、さらに仮説を立てる…という何を何回か繰り返して、研究授業当日を迎えました。生徒たちはiPad片手に動画を繰り返し返し見て、どの角度で飛べばより遠くに飛べるかなど考え試技を繰り返し行っていました。そのように探究する様子を参観された先生方

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

## ガーデン & エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式  
会社

**八王子装建**

代表取締役 西 谷 光 徳 (昭和 46 年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応  
八王子市子安町 1 - 32 - 19

TEL: 0426 (45) 4295 FAX: 0426 (44) 8549

URL : <http://www.h-soken.com/> E-mail : [nisitani@h-soken.com](mailto:nisitani@h-soken.com)

## 中田税務会計事務所

税理士

**中田 毅**

昭和39年卒

埼玉県狭山市下奥富737-5

TEL.FAX. 0429-53-9240

は、新しい形の授業の在り方について示唆を得られたようでした。今年度はこのような教科における取組を総合的な探究の時間への取組に汎用させて、本校の STEAM 型教育のモデルとして成果をまとめていくことにしています。11 月 21 日 (金) に公開研究授業を実施する予定ですので、興味のある同窓生の方は是非学校にお問い合わせください。

最後に部活動についてです。今年度も新入生がたくさん参加し、ほとんどの生徒が部活動に加入しています。現在 12 の運動部、6 つの文化部、3 つの同好会とこの学校規模としては多い種類で、それぞれ日々精力的に活動を行っています。限られた時間での練習ですが、工夫を凝らし 5 時半完全下校のルールをしっかりと守りながら、多くの運動部が地区大会を勝ち上がり県大会へと進んでいます。

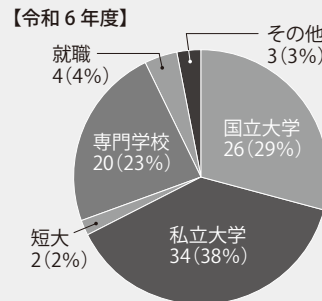
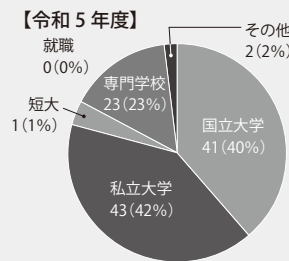
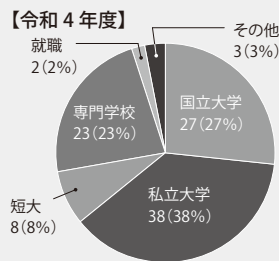
本年度創立 128 年を迎えた本校は、これまで培ってきた伝統と新しい理念とを兼ね備えた学校づくりにあります。生徒がすべての活動に主体的に取り組むことのできる学校を目指したいと考えています。

同窓生の皆様のさらなる御支

援、御協力をよろしくお願いいたします。

令和 6 年度進路決定状況 国公立大学 26 名 (29%) 私立大学 34 名 (38%) 短大 2 名 (2%)  
専門学校 20 名 (23%) 就職 4 名 (4%) その他 3 名 (3%)

進路状況 卒業年度別進路決定者数(割合)※



東京庄原格致会の  
みなさんへ



田中 哲哉  
(昭和四十九年卒)

今から半世紀前、私は格致高校を卒業し、大学受験のため、芸備線ちどり号で広島に向かいました。広島駅から午後 7 時乗車のあさかぜ 3 号に乗り換え、初めての上京。青雲の志を持ち、東京に行きたい一心で寝台車に揺られたのを懐かしく思い出します。

その後、私は予備校生活 1 年、大学時代 4 年、計 5 年間で東京で過ごしました。今、みなさんがどんな経過をたどり東京で生活されているのか想像しながらこれを書かせてもらっています。私の場合、大学卒業後、東京に残るか故郷に帰るか選択がありました。結果として広島県の小学校教員として 59 歳まで勤務することになり今に



二階堂調剤薬局  
グループ

二階堂調剤薬局  
二階堂調剤薬局ときわ台店  
まへの薬局北口店  
まへの薬局おおたかの森店

代表取締役 薬剤師  
石井 美佐子  
(旧姓 瀧口) (昭和 48 年卒)

東京都板橋区南常盤台 1-30-21  
TEL 03-3958-9955



至っています。東京で格致高校の同窓会が継続されていること、今回の原稿依頼主の同級生から知り、改めて会を存続

されてきたみなさんの熱意と故郷に思いを寄せられている気持ちに敬服するばかりです。

今年4月、庄原市では自治体選挙があり、市長、議会議員が変わりました。次世代へのバトンが市政でも渡されています。地域課題は人口減少による諸問題があり、中間山地での課題を解決していくには長期展望を持ち、継続して取り組みしかありません。これから発展を期待し、私も今は地域自治会長としてできることを継続していくつもりで取り組んでいます。

半世紀前と今の庄原。すべてが大きく変わっています。みなさんの庄原に対する心の映像はどのようなものでしょう。高校に通った街並み、下宿していた家のことなど思い出してみてください。心の中にふるさとは鮮明に蘇るはずで



す。ただ、変わらないこともあります。それは豊かな自然です。庄原の四季をお伝えしましょう。今は青葉茂る前。私の家から見える勝光山をバックにした山々は淡い萌黄色。絶賛です。新学期が始まることをいつも思わせた色彩は今も同じです。これから夏に向けて稲田はそよぎ、青臭い匂いを振りまきます。梅雨を迎える前、西城川には八目ウナギが遡上し、ナマズが産卵のため水路に入ってきていました。残念ながら現在では八目ウナギは確認されませんが、放流された鮎が元氣よく泳ぎ始めます。アユ釣りを楽しむ人々。現在も漁協の努力で健在です。昨年は「日本一おいしい鮎」としてマスコミでも報道されました。稲刈りが始まる9月。近年、全国的な高温の夏日が長く続き、農家の人々は暑い中、日々の作業に励んでおられます。それでも10月末に

もなると、山々は紅葉の兆しを見せてくれます。帝釈峡や県民の森、比婆山など、11月初旬には紅葉へとスタートし始めます。

冬。今年は思いのほか雪が降りました。高野地域では2メートル近くの積雪がありました。除雪車がすぐ入ってくれますが生活道や家回りは大変でした。とりわけ高齢者にとっては厳しい自然です。半面、県民の森スキー場や道後山スキー場にはたっぷりの雪があり、毎年雪不足に悩んでいた関係者の方々は喜ばれました。そして春。上の池にほんぼりが灯されるのも昔と変わらない光景です。ただ、桜の木は老木が枯れて新たに植樹され、湖畔は明るい遊歩道になっています。

このように年間を通して豊かな自然に恵まれた庄原市。みなさんも機会を作ってぜひ帰郷してみてください。高校時代を過ごされた庄原と再会しこの豊かな自然を懐かしんでください。

山々は紅葉の兆しを見せてくれます。帝釈峡や県民の森、比婆山など、11月初旬には紅葉へとスタートし始めます。

冬。今年は思いのほか雪が降りました。高野地域では2メートル近くの積雪がありました。除雪車がすぐ入ってくれますが生活道や家回りは大変でした。とりわけ高齢者にとっては厳しい自然です。半面、県民の森スキー場や道後山スキー場にはたっぷりの雪があり、毎年雪不足に悩んでいた関係者の方々は喜ばれました。そして春。上の池にほんぼりが灯されるのも昔と変わらない光景です。ただ、桜の木は老木が枯れて新たに植樹され、湖畔は明るい遊歩道になっています。



庄原のお土産は、  
「庄原の食」を一堂に集めた特産店で！  
贈答用には庄原のブランド牛「比婆牛」が人気です！！

〒727-0004 広島県庄原市新庄町 291 - 1  
TEL 0824-75-4411 FAX 0824-75-4422

〈指定管理者〉株式会社 グリーンウインズさとやま  
代表取締役 奥井 智裕 (昭和 57 年卒)



森と桜と温泉に  
心癒される  
丘の上の温泉ホテル

サウナと千葉実母散浴剤の浴槽が人気です。

運営会社 (株) サンヒルズ庄原  
社長 安部隆弘 (昭和 63 年卒)



桜花の郷  
ラ・フォーレ庄原  
La Foret Shobara

ご予約・お問合せは

☎(0824) 73-1800

〒727-0004 広島県庄原市新庄町 5281-1 FAX 0824-73-0100



## 倉田百三への旅



赤川仁洋  
(昭和五十一年卒)  
庄原市で「どら書房」を経営

毎年、大学時代の仲間が集まってテニス旅行をしている。わたし以外は関東近辺の在住者なので、集合場所は千葉県の房総が多い。それだけではもったいないと、少し早めに上京して他の予定もプラス、貧乏性なのだろう。去年の十月に上京したときは、倉田百三のゆかりの地を訪ねた。

倉田百三(一八九一～一九四三年)は庄原出身の文豪で、処女作の戯曲「出家とその弟子」を岩波書店より自費出版、大ベストセラーとなる。「愛と認識との出発」は、善とは何か、真理とは何か、友情とは何か、恋愛とは何か、信仰とは何か、を真摯に追求した論文集で、大正―昭和の旧制高校生に愛読された。西田幾多郎の「善の研究」、阿部次郎の「三太郎の日記」と共に青年の必読書と言われた。

JR東日本・京浜東北線の大森駅で下車した。駅の西側の地域、



大田区山王、馬込、中央一帯は、大正末期から昭和初期にかけて、多くの文士、芸術家が関東大震災後に移り住み、

交流を深めた。いつしかこの辺りを「馬込文士村」と呼ぶようになった。石坂洋次郎、稲垣足穂、川端康成、北原白秋、室生犀星等々、錚錚たる作家たちの中に倉田百三の名前がある。

「倉田百三の家は、南馬込の谷中通り近くにあり、大正十四年に越してきて以来、生涯この家で暮らしました。書斎に使っていた洋館(ギリシャ風円柱の玄関)は、その前が藤棚になっていて、庭の前には蓮池があり、また近くの傍らには洗い場があつて、付近で採れた野菜などを洗う光景が見られました。」

百三家のあった場所(現在は眼科医院)には、似顔絵と共に解説文が掲示されている。昭和十八年、この地で百三は五十二歳の生涯を終えた。多磨霊園に墓所がある。

倉田百三は、東京の第一高等学校

校(東大の前身)に入学するも、手ひどい失恋をした後で結核を病み、学校も退学。そうした失意の中で生まれたのが、「出家とその弟子」だった。海外でも翻訳され、フランスの作家ロマン・ロランからは激賞する手紙が届いた。

わたしが経営する古本屋「どら書房」が月刊で発行しているミニコミ誌「県北どろくろあ」で、元朝日新聞の記者の音谷健郎さんが「文学探訪『百三の青春』と「人生探訪の徒、倉田百三の流転」をそれぞれ一年間にわたって連載。それを一冊の本にまとめる予定で、姉妹の度重なる死、病身との闘い、複雑な女性関係、国粹主義への傾倒……、懊悩する作家の人生を「探訪」、今年中の刊行を目指しています。



ゴルフ同好会、バス旅行同好会などは、コロナ禍以後、参加者が激減したため現状では中止になっています。

ます。

囲碁同好会は、合田良三会長(三十三年卒)のもとで毎月第二日曜日の午前十一時半から午後四時半まで、JR新宿駅東口の近くにある囲碁サロン「喜楽」の屋上特別個室を借り切り、昼食はサンドイッチ・おにぎり・ビール等をいただきます。和気あいあいです。

昨年十二月に同好会立ち上げ時から参加いただいていた信清治さん(三十一年卒)が亡くなられたため、現在会員は十二名で母校のOBが八名、会員の紹介での入会者が四名となっていて上位者は七段から下位は九級までの幅広い棋力の方が集っています。

入会時に高段者と対局した結果で日本棋院の基準表にもとづいた格付けをもらいます。対局は棋力の差で置き碁をしてハンデキヤップを補い総当たり戦としていきます。勝敗で三ポイントが移動する形で戦い年末には年間勝率で優秀者を表彰しています。令和六年の最優秀賞は岩竹康良(会員紹介)でした。また、有志による対局後の反省会も楽しみの一つになっています。

マスコミによるとグラウンドゴ

ルフの参加者が激減していると報じられていましたが、その原因は高齢化による参加者の減に加え、高齢者の職場の拡大にあるのとことです。囲碁同好会も同じ運命にあり、新規会員の加入を求めています。老若男女を問わず初心者の方も大歓迎です。ご興味をお持ちの方はまず、気軽に「喜楽」にお運びいただき見学してください。

事務局の瀬尾明雄（四十年卒）までお電話（090・5433・2302）をいただければご案内いたします。留守電になっている場合にはお名前と電話番号をお残しください。こちらから連絡させていただきます。

（文中、敬称略）

## 編集後記

今年は戦後80年。広島で育った私たちは、8月6日は夏休み中の登校日で8時15分には校庭で市内に響くサイレンの音に合わせて黙祷し、平和を祈念することを学んだ記憶があります。

今号の会員だよりに、写真家宮角孝雄さん（41年卒）からまさしく広島から平和を訴えるご寄稿を、また、藤谷道夫さん（52年卒）にはご専門のイタリア文化について国際社会を覗き見るようなご寄稿を、それぞれいただきました。母校だよりは今年も教頭先生から、郷土だよりは、赤川さんが我が郷土作家倉田百三の連載記事をまとめる企画の裏話を、また、東京で学生時代を過ごした田中さんは庄原の変わらない四季をお伝えくださいました。

本会は高校時代を同じ校舎で過ごした人たちが、遠く故郷を離れた地で再会できたあたたかな居場所として存続しています。その思いを共有してくださるお気持ちを、ご寄付に、どうぞよろしく願っています。そして気が向きましたらばぜひ再会の場においでください。

（事務局）

## 令和 6 年度東京庄原格致会会計報告

（自令和 6 年 7 月 1 日～至令和 7 年 6 月 30 日）

### 一般会計収支報告書

（単位：円）

| 収入の部      |           | 支出の部         |           |
|-----------|-----------|--------------|-----------|
| 前年度からの繰越金 | 284,326   | 会報作成費・発送費    | 291,820   |
| 年会費       | 221,000   | 幹事会経費        | 2,210     |
| 広告収入      | 60,000    | 総会・懇親会経費     | 354,398   |
| 寄付        | 182,500   | 他同窓会出席経費     | 90,000    |
| お祝い金      | 78,000    | HP関係経費       | 38,500    |
| 懇親会会費     | 256,000   | 当座管理費（振込手数料） | 15,671    |
| 受取利息（一般）  | 162       | 通信費等事務費      | 10,000    |
|           |           | 次期繰越金        | 279,389   |
| 合 計       | 1,081,988 | 合 計          | 1,081,988 |

### 基金会計収支報告書（自令和 6 年 7 月 1 日～至令和 7 年 6 月 30 日）

（単位：円）

| 収入の部      |         | 支出の部  |         |
|-----------|---------|-------|---------|
| 前年度からの繰越金 | 348,620 | 次期繰越金 | 379,346 |
| 寄付        | 30,500  |       |         |
| 受取利息（基金）  | 226     |       |         |
| 合 計       | 379,346 | 合 計   | 379,346 |

### 財産目録（令和 7 年 6 月 30 日現在）

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| （一般勘定）            |           |
| 郵便局 振込口座（年会費振込口座） | 8,156 円   |
| 〃 一般口座（一般口座）      | 271,233 円 |
| 合 計               | 279,389 円 |
| （基金勘定）            |           |
| 郵便局口座             | 379,346 円 |
| 合 計               | 379,346 円 |
| 総 合 計             | 658,735 円 |

左記のとおり報告致します。

令和 7 年 7 月 10 日

東京庄原格致会

会 長 武 廣 巖  
監 事 塚 原 通 彦  
監 事 畑 原 裕 文  
事務局長（会計） 本間ますみ

### 東京庄原格致会役員名簿（令和六年十月二十日）

|      |                  |       |                   |
|------|------------------|-------|-------------------|
| 顧問   | 室 伏 孝 一（昭和三十五年卒） | 事務局長  | 本間ますみ（昭和四十九年卒）    |
|      | 飛谷安宣（昭和三十三年卒）    | 副事務局長 | 奥重秀彦（昭和四十七年卒）     |
|      | 生田八洲紘（昭和三十三年卒）   |       | 坂口純代（昭和五十二年卒）     |
|      | 合田良三（昭和三十三年卒）    |       | 幹 事 大岩征子（昭和三十七年卒） |
|      | 迫田芳徳（昭和三十四年卒）    |       | 小池正之（昭和三十八年卒）     |
|      | 田淵統洋（昭和三十五年卒）    |       | 中 田 毅（昭和三十九年卒）    |
|      | 横山弘佳（昭和三十五年卒）    |       | 田中文男（昭和四〇年卒）      |
|      | 光島勝馬（昭和三十五年卒）    |       | 若山博文（昭和四一年卒）      |
|      | 八谷英樹（昭和三十五年卒）    |       | 新宅二三（昭和四二年卒）      |
|      | 遠藤靖夫（昭和三十七年卒）    |       | 吉田玲児（昭和四七年卒）      |
|      | 新山千樞（昭和三十七年卒）    |       | 原本政夫（昭和四八年卒）      |
| 会 長  | 武 廣 巖（昭和四八年卒）    |       | 藤谷道夫（昭和五二年卒）      |
| 副会長  | 花田和教（昭和四〇年卒）     |       | 矢吹文伸（昭和五八年卒）      |
| 幹事長  | 助政千尋（昭和四〇年卒）     | 監 事   | 塚原通彦（昭和三十八年卒）     |
| 副幹事長 | 木曾隆治（昭和四六年卒）     |       | 畑原裕文（昭和四八年卒）      |
|      | 石井美佐子（昭和四八年卒）    |       |                   |

ご逝去のお知らせ  
令和六年度、事務局で把握したご逝去された会員の方をお知らせいたします。

|                |                |               |                |               |                 |               |                |               |                |               |
|----------------|----------------|---------------|----------------|---------------|-----------------|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|
| 木村貞寧 様（昭和一五年卒） | 藤永哲治 様（昭和一六年卒） | 藤谷博 様（昭和一八年卒） | 阿多精三 様（昭和三〇年卒） | 恵木弘 様（昭和三〇年卒） | 椎名喜多子 様（昭和三〇年卒） | 信清治 様（昭和三一年卒） | 西村象六 様（昭和三四年卒） | 田辺実 様（昭和四〇年卒） | 都甲英範 様（昭和四〇年卒） | 沼田貢 様（昭和五〇年卒） |
|----------------|----------------|---------------|----------------|---------------|-----------------|---------------|----------------|---------------|----------------|---------------|

デザイン・印刷・ノベルティで  
企業イメージをUPさせる  
販促品をご提案いたします。



株式会社  
クレスコアースコミュニケーションズ  
〒101-0033  
東京都千代田区神田岩本町 4-4  
神田北辰ビル 3F  
TEL.03-5207-5189  
www.cresco-ars.co.jp

年会費の納入をお願いいたします。  
「年会費」お一人様2000円は、東京庄原格致会会報発行等の運営を賄うために最も重要な財源です。この会報に同封の振替用紙でご入金ください。この会報に同封の振替用紙でご入金も同用紙にて承ります。よろしく願っています。

ご寄付ありがとうございました。  
令和六年度、次の方よりご寄付いただきました。ありがとうございます。ご寄付は随時受け付けております。どうぞよろしく願っています。

|              |              |
|--------------|--------------|
| 三浦重造 様（昭26）  | 平川智子 様（昭38）  |
| 政重悦生 様（昭26）  | 渡邊千草 様（昭38）  |
| 兼利卓蔵 様（昭28）  | 三宅俊夫 様（昭39）  |
| 北畑睦子 様（昭30）  | 中田毅 様（昭39）   |
| 信清治 様（昭31）   | 助政千尋 様（昭40）  |
| 生田八洲紘 様（昭33） | 田中文男 様（昭40）  |
| 大竹京子 様（昭33）  | 磨正純 様（昭40）   |
| 太原アヤ子 様（昭33） | 戸屋新 様（昭40）   |
| 迫田芳徳 様（昭34）  | 西田秀夫 様（昭41）  |
| 藤原チエミ 様（昭34） | 守長和子 様（昭41）  |
| 田淵統洋 様（昭35）  | 新宅二三 様（昭42）  |
| 八谷英樹 様（昭35）  | 福場泰蔵 様（昭45）  |
| 遠藤靖夫 様（昭37）  | 福場美知留 様（昭45） |
| 大岩征子 様（昭37）  | 木曾隆治 様（昭46）  |
| 新山千堅 様（昭37）  | 武廣巖 様（昭48）   |
| 伊藤亮三 様（昭38）  | 広田長歳 様（昭49）  |
| 岡崎千鶴子 様（昭38） | 本間ますみ 様（昭52） |
| 川野正江 様（昭38）  | 大林孝 様（昭52）   |
| 塚原通彦 様（昭38）  | 坂部賢治 様（昭53）  |

（ ）内は卒年